

令和八年度入学者選抜学力検査追試験問題

国

語

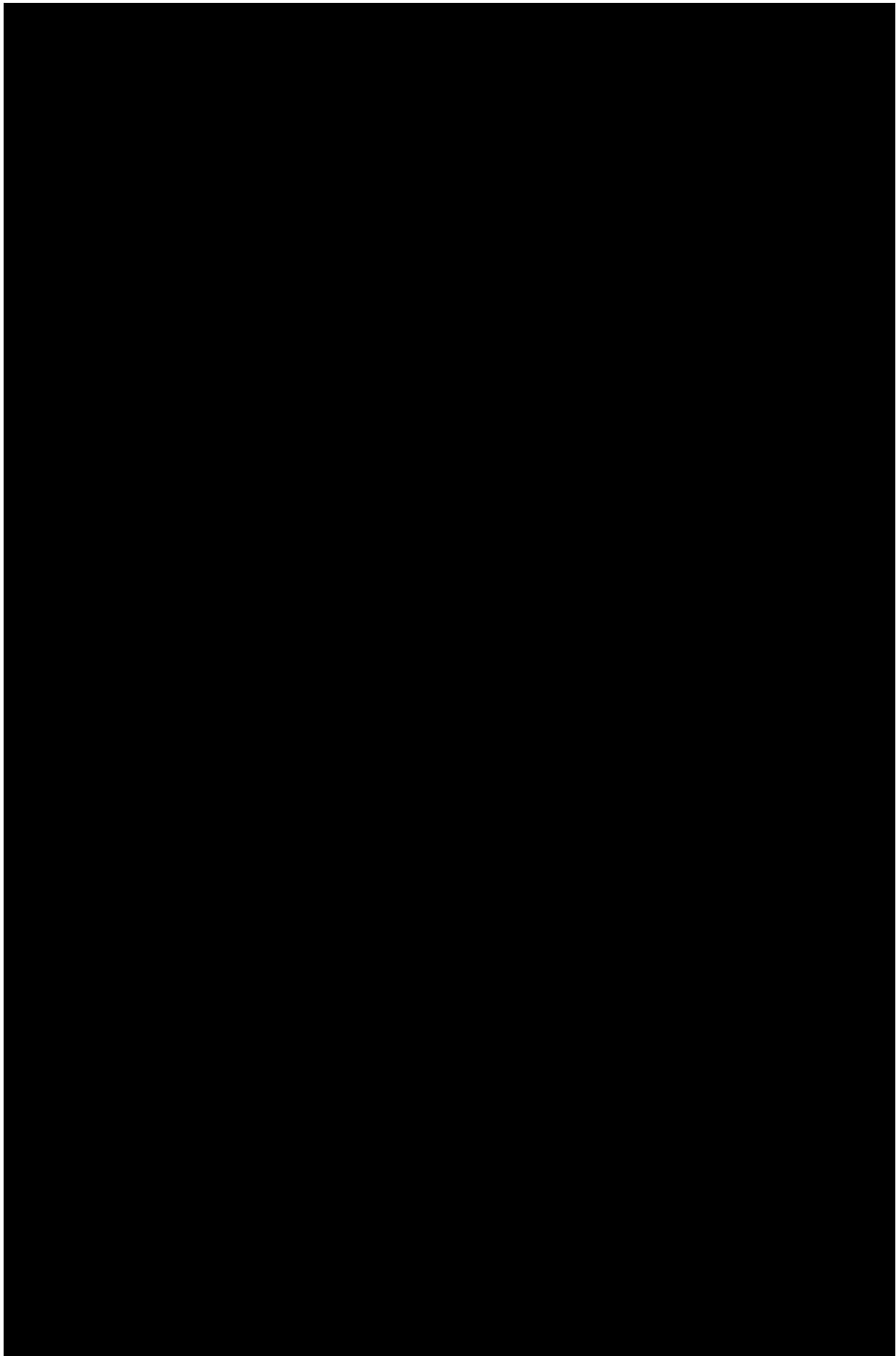
(配点)

1	32点
2	35点
3	33点

(注意事項)

- 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 問題は一ページから一〇ページまである。検査開始の合図のあとで確かめること。
- 検査中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、静かに手を高く挙げて監督者に知らせること。
- 解答用紙に氏名と受験番号を記入し、受験番号と一致したマーク部分を塗りつぶすこと。
- 解答には、必ず**HB**の黒鉛筆を使用すること。なお、解答用紙に必要事項が正しく記入されていない場合、または解答用紙に記載してある「マーク部分塗りつぶしの見本」のとおりにマーク部分が塗りつぶされていない場合は、解答が無効になることがある。
- 一つの解答欄に対して複数のマーク部分を塗りつぶしている場合、または指定された解答欄以外のマーク部分を塗りつぶしている場合は、有効な解答にはならない。
- 解答を訂正するときは、きれいに消して、消しきずを残さないこと。

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えよ。



問1 本文中に、傍若無人、藪から棒 とあるが、傍若無人 はここで意味として最も適当なものを、藪から棒 は同様の意味を持つ慣用表現を、それぞれ次のアからエまでのなかから一つずつ選べ。

(a) ア 近くにいる若い人のように、行動的になつてしまうこと。
ウ 近くに人がいないことで、寂しい気持ちになつてしまうこと。

(b) ア 背水の陣 イ 寝耳に水 ウ 藪をつついて蛇を出す
エ 飛んで火に入る夏の虫

問2 空欄 A C に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア A つまり B むしろ C しかも イ A つまり B たとえば C すなわち
ウ A そして B たとえば C しかも エ A そして B むしろ C すなわち

問3 本文中に、⁽¹⁾季語は約束の上に成り立つ とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア 季語とは、同心の者たちの合意を得た上で、最終的に一人の権威ある俳人が『歳時記』に採録すると判断したものである。
イ 季語とは、たとえば桜や鯉や渡り鳥のように、特定の概念から離れて俳句の中だけで用いられるようになつたものである。
ウ 季語は、同心の者の集団における合意の上に成り立ち、一般概念としての意味にとどまらず、特殊な意味合いを持つものである。
エ 季語は、たとえば杏や水引の花のように、季節を示さない特殊な語を、句の中で用いないという約束の上に成り立つものである。

問4 本文中に、季語を無条件に尊重することが、ただちに自然愛とか自然把握に通じるわけのものでない とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 季語の功德は、何よりも遊び心やいきりたつ精神によって支えられていることに気づくことができないほど、先人たちの作ったフィルターは精巧にできているから。

イ 季語を知れば知るほど、人間の目にかかるフィルターの精度は増していき、現実とは違う世界への視界を開いていくが、それは先人たちの作り上げた幻にすぎないから。

ウ 季語は自然界の移り行きのある様相の全体を捉え、あざやかに粒立てて見せることができると、それは人間が作り出した偽りの自然であり、自然そのままの姿ではないから。

エ 季語を通して自然に接しても、それは先人たちが撫でまわしてきたものを掴んでいるにすぎず、自分が見て感じた自然そのままの姿をとらえているわけではないから。

問5 本文中に、私のいう、「通念離れ」⁽³⁾ とあるが、それはどういうものか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア ある季語が、一般的な使い方ではなく、花鳥諷詠の句の中で存分に生かされて月並みになつているもの。

イ 新年を迎える心に代表されるような、他とは一線を画す清らかな姿勢と思い切りのよさがうかがえるもの。

ウ ある季語を、類型的な使い方ではなく、独自のとらえ方をした上で新鮮な文脈の中で生かしているもの。

エ 直観的な形象把握の鋭さがうかがえ、季語本来の意味をあざやかに浮かびあがらせるように詠まれているもの。

問6 本文中に、しかし私は、自分の誤読が、この場合必ずしも悪いことではなかつたように思つてゐる⁽⁴⁾ とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 誤読したことで、作者のふてぶてしさが句に魅力を与えていることに気づき、そこに独自な生命力を感じたから。

イ 誤読したことで、語の多義性が俳句を支えていることに気づき、作者の作為を越える読みの可能性を感じたから。

ウ 誤読したことで、主語をあえて示さないという技法こそが、俳句に永遠の持続性をもたらすことに気づけたから。

エ 誤読したことで、曖昧さを徹底的に取り除いた語こそが、俳句に使うのにふさわしいということに気づけたから。

問7 本文の内容に合致するものを、次のアからオまでの中から一つ選べ。

ア 芭蕉の句の、「夜寒に落ちて」は、前の「病雁」と後の「旅寝」という異質なものを明確に切り離しており、句全体に未完の性格をもたらしている。

イ 虚子の句は、新年の季語である「去年今年」を使いながらも、あえて無季の句と規定することと、「棒」の単純なイメージを強調することに成功した。

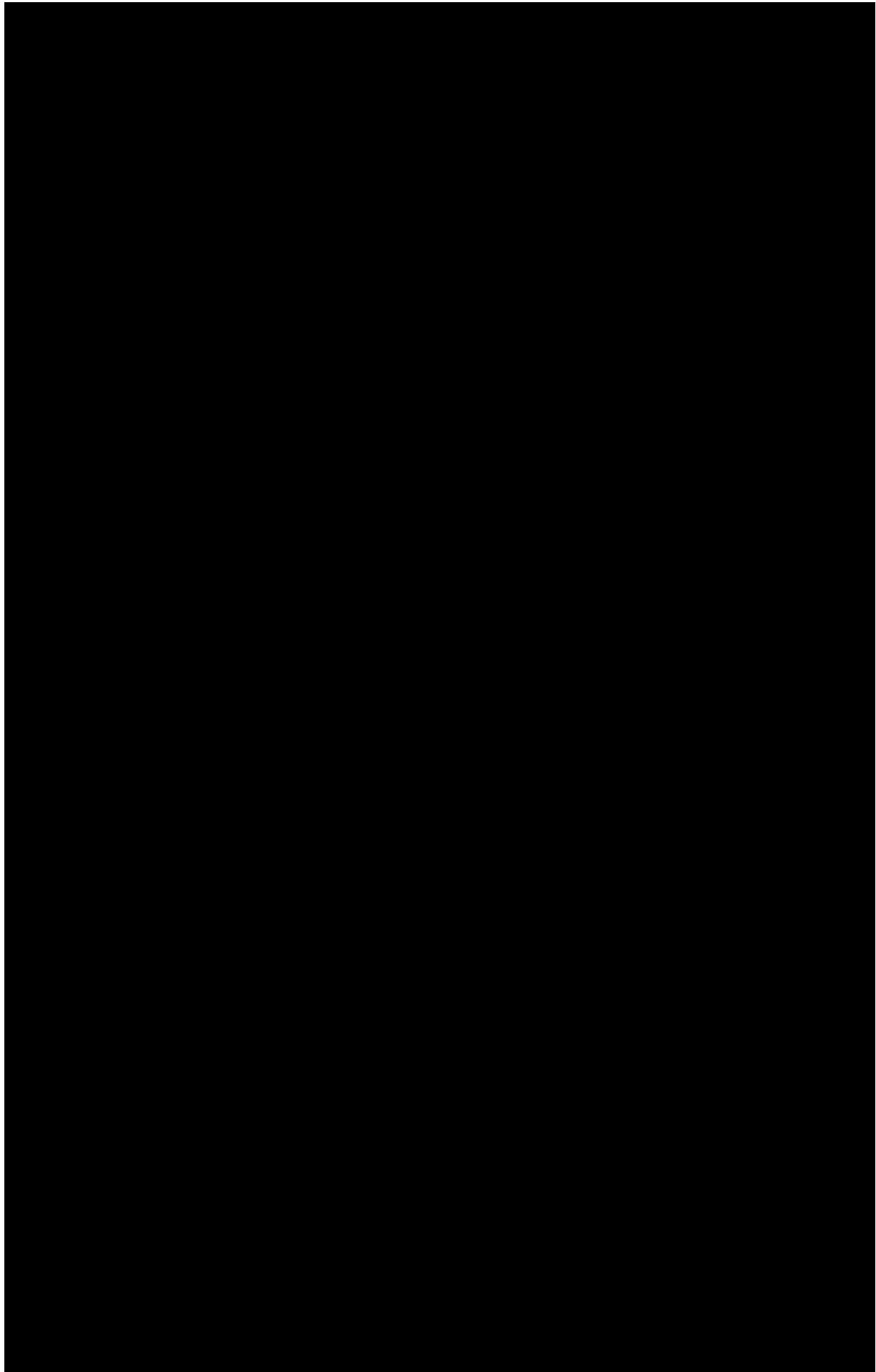
ウ 蛇笏の句は、年のあらたまる瞬間の姿勢たどり居すまいを「去年今年」という季語で示したことで、諧謔性に富んだ不思議に魅力的な句になった。

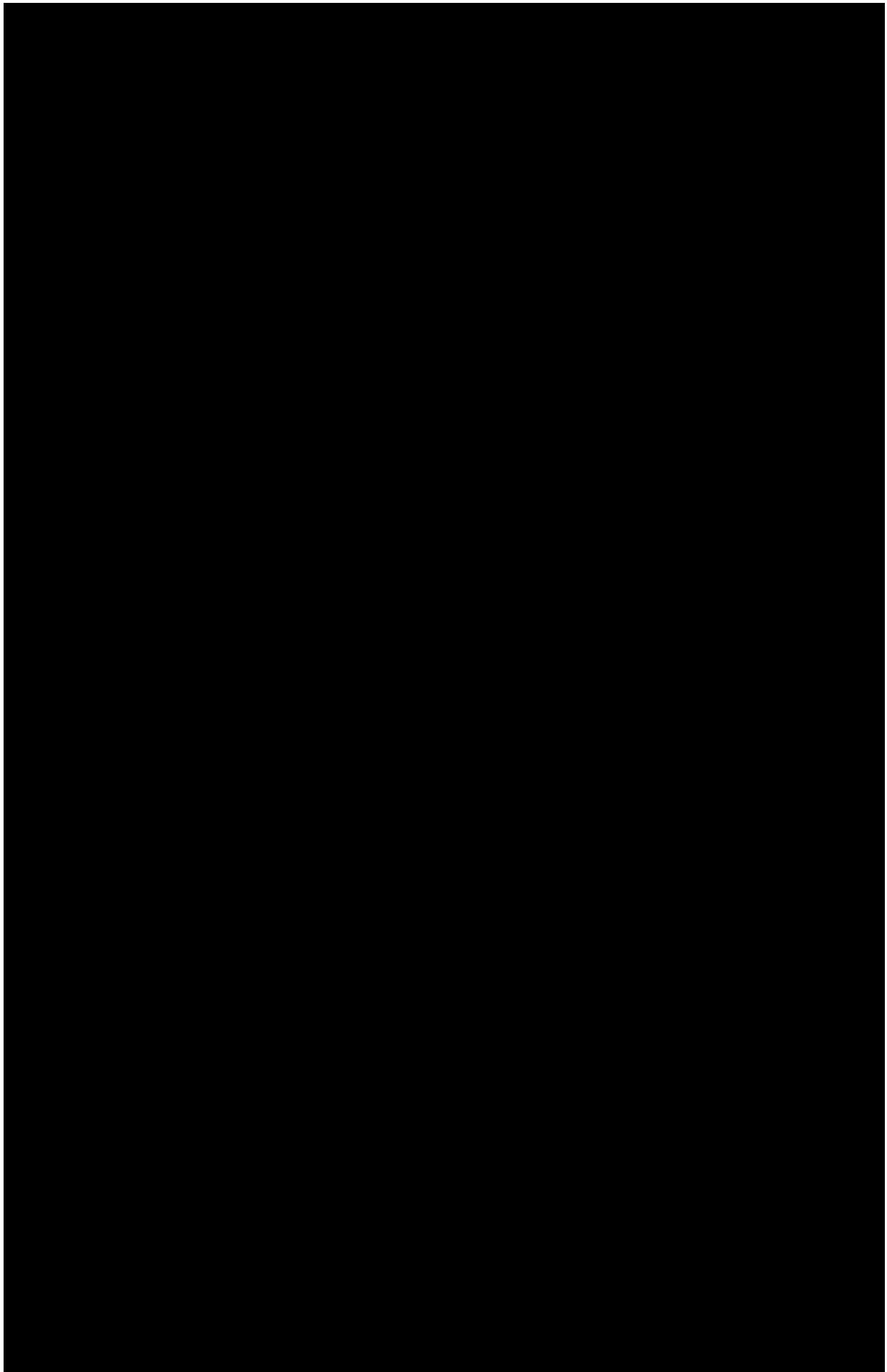
エ 芭蕉の句の、「旅寝」する主格を「病雁」とするのは詩心の機微について理解していないと言えるので、主格は芭蕉自身であると取る方が望ましい。

オ 虚子の句の、「貫く棒の如きもの」は抽象的かつ曖昧な語であるが、「去年今年」という季語と遭遇したことで、むしろその抽象性が魅力となっている。

2

次の文章を読んで、後の問い合わせ答えよ。





問1 本文中の、^①カク得、^②模サク、^③極タン、^④覚ゴのカタカナ部分の漢字表記として適当なものを、次のアから工までの中から一つずつ選べ。

①カク得 ア 格 イ 確 ウ 獲 工 画 ②模サク ア 索 イ 策 ウ 作 工 錯

③極タン

ア 嘆

イ 短

ウ 単

工 端

④覚ゴ

ア 誤

イ 悟

ウ 互

工 護

問2 本文中の、用いられる、考えられる、ほめられる、見られるの中で、他と文法的意味が異なるものを一つ選べ。

a 用いられる

b 考えられる

c ほめられる

d 見られる

問3 本文中に、⁽¹⁾温暖化の例 とあるが、これを通して筆者が言いたいことはどのような内容か。その説明として最も適当なものを、次のアから工までの中から一つ選べ。

ア 空間的・時間的制約を越えて全ての人が幸せになる方法を考えるためには、物事が様々な因果関係で成立していることを理解して、広く知識を集めることが不可欠だということ。

イ 一つの物事に気を取られすぎず、正しく行動できるようになるために、柔軟な思考力によって得た知識を用いて、その時代時代の人々の行動を先導することが大切だということ。

ウ 時空間の広がりや様々な因果関係の存在に気づかず行動している自分自身を改めるために、知識を重視し、まずは特定の学問分野を習得することが大切だということ。

エ 現在の生活を充実させる方法を深く考えて行動していくためには、決して消極的になることなく、広範囲にわたる知識を継続して求めていくことが不可欠だということ。

問4 本文中に、「現状を疑うことによって本当の『善』を目指すこと」とあるが、どういうことか。その説明として適当ではないものを、次のアから工までの中から一つ選べ。

ア 直面している現状を自明なものととらえず、知恵や想像力を働かせ、原因・理由を考えること。

イ 対象・問題の本来の姿を考え、そこからどうすれば「正しさ」にたどりつけるのかを考えること。

ウ 収集した多くの知識を用い、先入観を持たずに物事を見つめて、そのよりよいあり方を考えること。

エ 対象・問題が持つ現状や将来の姿を、他人の意見を参考にすることなく独自の方法論でとらえること。

問5 本文中に、その間違いに気付くことさえできないはです。とあるが、なぜそうなるのか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 「相対主義」による言動は、時代の変化や人々の意向をふまえたものだが、実はそれが一部の「哲学する」人によつて作られた偽りの常識に過ぎないということを、積極的で強い人間は理解できないから。

イ 時代の変化は、その時代を生きる人々が目先の利益を考えた結果として生まれてくることが多く、「相対主義」的に考えている限り、「正しさ」には決して到達することがないから。

ウ 「ご時世論」と「相対主義」とは本来全く別のものなので、両者を完全に切り離して考えることが何よりも必要であるが、一部の消極的な人間しかそのことに気づいていないから。

エ 他人の顔色をうかがいながら「正しさ」を決めていくという「相対主義」の中で、自分を見失わずにいるのは難しいことなので、過激な方向に物事を推し進める人間しか、本当の正しさに気づけないから。

問6 本文中に、それもまた「哲学する」ことから非常に遠い態度です。とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 自らが見たいと思う現実しか見ないという態度は、時代の流れに沿つて物事を推し進めようとすることと同様に、目先の都合の良し悪しを基準にして物事を判断することに通じると考えているから。

イ 自分にとって不都合なことから目を背けるという態度は、「ご時世論」や「相対主義」と同様に、その時代の流れに逆らつて過激な方向へ向かう人々を助長することに通じてしまうと考えているから。

ウ 自分にとつて不都合なことから目を背けるという態度は、「ご時世論」や「相対主義」と同様に、消極的な人間だと評価されることを恐れず目先の利益を追求することにつながると考えているから。

エ 自らが見たいと思う現実しか見ないという態度は、時代の流れに沿つて物事を推し進めようとすることと同様に、その態度が多方面にわたらる検討を促すものだと考えているから。

問7 本文中に、「無知の知」から導き出される「哲学する」＝「善・美を目指して問い合わせ」とあるが、本文を読んだ生徒たちが、「無知の知」に関する次の文章も踏まえて発言している。「哲学する」ことについての発言として、内容が最も適当なものを、次のアからエまでのなかから一つ選べ。

ア ソクラテスは、巫女の発言すらも鵜呑みにせず、その真偽を確かめるなかで、自然と「哲学する」行為を実践し、「無知の知」の独善性に気がついたんだ。

イ 自分の中に蓄積した知識を柔軟に活用しながらも、誰と何を成し遂げるかという点を重視して計画を立てることこそが、「哲学する」との第一歩なんだね。

ウ 「哲学する」ということには、まずは「自分が知らない」ということを自覚し、損得にとらわれることなく、主体的に物事の本質に迫ろうとする姿勢が大切なんだ。

エ 「賢者」と言われるとそこで思考や行動を止めてしまう可能性もある中で、ソクラテスは「哲学する」ことによって、世の中が自分に求めていることを的確に見極めたんだね。

3

次の文章を読んで、後の問い合わせ答えよ。

小さな芸能事務所に所属し舞台俳優をしている「私」、坂田まち子（マルチ）は、売れっ子演出家である野上さんが専属している劇団潮祭の冬公演に出演予定である。演じる作品は江戸時代を舞台にした劇であり、主演の盗賊役の松山さん、ヒロイン千夏役のももちゃん、千夏の住むお屋敷に勤める女中①役のさとちゃんなどと共に、野上さんに厳しく稽古をつけられている。「私」は、女中①の横で言葉少なくヒロイン千夏を見守る女中②役を担当しているが、以前ももちゃんが体調を崩して休んだ際、代わりに千夏役として稽古したこともある。「私」はいつも、出演者全員分の台詞と動きを覚えているからだ。舞台上の全てを把握することを強く心がけたのは、かつて本番で台詞を忘れた主演俳優を助け、感謝されたことがきっかけだった。

問1 本文中の、^(a)意を決して、^(b)縦横無尽に の意味として最も適当なものを、それぞれ次のアから工までの中から一つずつ選べ。

(a) ア 意見を聞こうと思って イ 本音を隠したまま ウ 思い切って勇気をもって エ 答えを出せないまま

(b) ア どの方面へも限りなく、自由自在に イ 疲れないように要領よく
ウ 言われたとおり、きわめて忠実に エ 誰からも悪く思われないように

問2 本文中に⁽¹⁾やつぱり私が選んだ道は間違つてなかつたと確信できたのだ。とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアから工までの中から一つ選べ。

ア 芝居をしても誰の役にも立たないと母は言っていたが、今、野上さんからの言葉を聞くことで、彼らの芝居が自分のためになつていると
気づき、深く感謝しているから。

イ どんなに芝居で努力を重ねても、誰の役にも立たないと母には言われたが、結果的には代役として成功を収めることができ、母も喜んでいるはずだと安心しているから。

ウ 役者の道を選ぶことに対して、それは誰の役にも立たないと言われたことがあったが、今、自分の存在が誰かの役に立っていることを実感し、誇らしく思っているから。

エ 私が選んだ演劇の道は厳しい世界ではあったが、今、自分の努力がようやく実ったことを確認し、これからは安定して仕事ができそうだ

と、達成感を味わっているから。

問3 本文中に、重たそうに開いた口はベッタリとした言葉で私を包んだ。⁽²⁾とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の

アからエまでの中から一つ選べ。

ア 重たそうに口を開いたのは私であり、先生の呼吸を読んで返答を待つ間の緊張感が、私をじわじわと苦しめたということ。

イ 重たそうに口を開いたのは先生であり、その言葉に私は圧迫され、逃げ場がないところに追い込まれるように感じたということ。

ウ 重たそうに口を開いたのは先生であり、先生の話があまりにも重要な内容で、私は自分の軽率さを思い知らされたということ。

エ 重たそうに口を開いたのは私であり、自分の発した言葉が場違いだつたせいで、自分自身を追い詰める結果になつたということ。

問4 本文中に、触れられた部分から体温がスッと引いていくのがわかつた。⁽³⁾とあるが、ここでの「私」の心情を説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 信頼できる先生だからこそ自分の本当の進路希望について相談したかったのに、期待を裏切られたうえに、私の思いに寄り添ってくれ

ず、自分の主張ばかりを説く先生の態度に、深い失意を感じている。

イ 先生は私が納得したと思い私の手を取つたが、私は全く納得がいかなかつたので、あえて冷淡な態度を取つたところ、先生が深く傷ついた表情をしてしまつたため、動搖して手に冷や汗をかいている。

ウ 人の役に立つためには、どの進路が適切かを落ち着いて話し合いたかったのに、役に立つかどうかより、いい会社に就職することが大事だと感情的に主張するだけの先生に対して、冷ややかな気持ちを抱いている。

エ 先生が私の進路を真剣に考え、励まそうとして言つた言葉に感謝はしているが、その前に、特別美人ではない人は芸能の世界は向いていないと言わされたことで傷ついているため、素直に同意できずにいる。

問5 本文中に、⁽⁴⁾ひとときはこれが正解だったと満たされた気がしていた。とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 一生懸命勉強したのに、結局は同級生たちと同じような大学にしか進学できなかつたという現実を、一旦納得したということ。

イ 両親が私の大学合格を喜んでくれたので、私が勉強を頑張ることは人の役に立つという実感を少しの間は得られたということ。

ウ 一時期は先生に反発したが、その助言に従い大学に進学したことを、役者となつた今は正しかつたと確信しているということ。

エ 私の大学合格を喜ぶ両親や先生の姿を見て、当時は正しい道を選んだと満足できたが、それは一時的なものだつたということ。

問6 本文中に、⁽⁵⁾本質的な役割が全く違う。とあるが、「私」と「さとちゃん」の「本質的な役割」はどのように違うのか。その説明として最も

適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 私は作品の骨組み部分として舞台を支えているのに対し、さとちゃんは、語り部として笑いを取るだけなので、重要な役割ではない。

イ 私はさとちゃんの脇にいてできるだけ目立たないようにする役なのに対し、さとちゃんの役は、できるだけ目立たなくてはいけない。

ウ 私は舞台を陰でひつそりと支える脇役でしかないが、さとちゃんは同じ脇役でも語り部として舞台の魅力を伝える重要な役である。

エ 私はひつそりと作品を支える役割のため舞台には決して姿を見せないが、さとちゃんは出番が多いため、作品の骨組みにもなれる。

問7 本文中に、⁽⁶⁾落胆する言葉の一つ一つが粒だつて耳に飛び込んでくる気がする。とあるが、このことについて、生徒がディスカッションを行つた。本文の内容をふまえ、空欄 I 、 II に当てはまるものを、それぞれの選択肢アからエまでの中から一つずつ選べ。

生徒1 落胆する言葉の一つ一つが粒だつて耳に飛び込んでくる気がする。つて、どういうことなんだろう。

生徒2 これは、客席のざわついた声が緞帳越しでもわかるほど聞こえてくるとか、開演が迫つてていることを知らせるベルが鳴るという記述があるから、本番の場面なんだよね。

生徒3 体に酷く力が入つていたことに気付かされ、深く息を吸つて吐くと書いてあるから、「私」は本番前にかなり緊張しているように感じられるよ。

生徒2 I ということだと考えられるよ。

生徒1 そうか。だから、観客の中にはがっかりしている人もいて、落胆する言葉の一つ一つが粒だつて耳に飛び込んでくる気がするというところのか。やつと理解できたよ。

生徒3 「私」はいつも、II から、今回選ばれたんだね。このあと、落胆する言葉も跳ね返すような活躍をし

てくれるといいな。

【 I 】

ア カツラに豪華なかんざしが挿さつてあるから、女中②の役ではなくて、他の役になつたんだね。野上さんが本番直前に新しい役を作つて、それを担当することになつて、稽古不足のまま舞台に立つてお辞儀の格好をしている

イ まだ着慣れない着物を着て、開幕前に舞台の中央でゆっくりと正座して、客席に向かってお辞儀の格好をしているね。舞台に出られなくなつたさとちゃんの代わりに、語り部である女中①の役を担当している

ウ 幕が上がる時に、いつもと何も変わらないじゃないか、と自分を落ち着かせているね。本番前に劇場で大きなトラブルがあつて、お客様が動搖している今こそ、脇役の自分が作品の歯車の一つとして作品を守ろうとしている

エ ヒロイン千夏役のももちゃんが、急に降板してしまつたのではないかな。このあと舞台上で、千夏として口を開いているということは、ヒロイン千夏の代役を務めているということで、そのためにかなり緊張している

【 II 】

ア 芝居の中で誰かの役に立てるよう、舞台の全体像を把握し、台本も全部頭に叩きこみ、自分の出番以外にも目を配つていた

イ 本当はもっと大きな役をやりたいと思いながらも代役に徹し、与えられたことを誠実に、求められるように表現し続けてきた

ウ 本番の舞台で、スポットライトの光を一身に浴びて自分の存在を存分にアピールできるように、一生懸命に稽古を重ねてきた

エ 脇役でも作品の骨組み部分を担う誇りと満足感をもち、良い舞台になるよう自分の演技のみに集中して表現力を磨いてきた

